

キャンパス / Campus	宇都宮キャンパス / UTSUNOMIYA		
科目名 / Course Title	世界の経済 / Word Economy		
担当責任者 / Instructor	宋 宇		
開講期 / Semester / Term	後期 / AUTUMN		
履修年次 / Target Grade	1,2,3,4		
単位数 / Credits	2.0		
分野・必修選択別 / Category / Required or Elective	専門科目 選択必修 選択必修 / Required Elective		
科目ナンバー / Course Number	0000-8B104		
ディプロマポリシー、修得目標との関連 / Diploma Policy / Learning Outcome	要件所属 / Course Name	ディプロマポリシー、修得目標 / Diploma Policy / Learning Outcome	DP値 / DP Point
	経済学部地域経済学科	経済学の手法によって地域の問題を調査・研究する能力を有する	1
		経済学の手法によって地域の問題を調査・研究する能力を有する	1
		経済に関する基礎知識を理解できる	1
		経済学の基礎的理論を説明できる	1
		自律・自立して学修することを通して各地域固有の問題を理解できる	1
		さまざまな地域に広く目を向けることを通して各地域に共通する問題を理解できる	1
その他コメント / Comments			
授業の概要 / Course Description	<p>本講義は3つの観点に力を入れ、それぞれ単独とするテーマ設定もあれば、観点ごとに内容を交えながら行う場合もあります。</p> <p>観点1とは、国際比較の側面から世界経済の全貌を確認します。その際、関連する経済用語について、経済学部でない学生でもわかるように平易に説明します。経済学部にも所属する学生にとって、経済学に関する最低限の専門知識を学習することができます。経済学は実に身近な分野で、誰もが経済活動を行っているので、皆は経済の主人公となっています。</p> <p>観点2とは、近年、話題になっている国を事例国として取り上げ、海外の経済事情・出来事について一緒に考え、分析します。経済が動いているものと実感してもらい、固定印象は事実と反する場合もあれば、日本で当たり前と思うことは海外では、あり得ないと思われる場合もあります。考え方は多様で、正解がない問い・課題が実に多いし、それを解く自体に意味があります。解釈によって、異なる展開が生まれると味わってもらいます。</p> <p>観点3とは、日本から出発し、日米関係、日中関係、日韓関係について、感情的に語るのではなく、そして経済分野のみならず、お互いの違いを理解し、メディアなどの解説に引き継がれなく、皆で話し合っ、内容を共有します。国家関係はある意味で、人との付き合いと一緒にです。人間関係が一番苦勞すると言われる日本社会では、国家間の関係をどうすれば良いのか、一緒に考え、できたら問題を提起し改善策を探るところまで行ってもらいたいです。</p> <p>この授業では、DP1(ディプロマポリシー1)を習得します。</p>		
授業の到達目標 / Course Objectives	<p>履修者は世界経済の流れと動きを知り、視野を広げることができます。自ら考えるようになり、文章のまとめ能力、ある程度のトピックサーベイ能力を高めることができます。正解がない問題を考え、解いていくのは、大学の学習であることを理解することができます。</p> <p>感情的、そしてメディアなどの解説に頼らず、履修者同士のコミュニケーションを通じて、多様性のある社会について理解を深め、授業を通じて友達づくりもできます。</p>		
成績評価の方法および基準 / Method of Evaluation	方法および基準 / Method of Evaluation	試験 / Exam(s)	50 %
		グループワーク / Group Work	30 %
		リアクションペーパー / Reaction Paper	20 %
試験・課題に対するフィードバック方法 / Method of Feedback on Exams and Assignments	フィードバック方法 / Method of Feedback on Exams and Assignments	授業内で解説を行う / In-Class Feedback、LMS等に解説を掲載する / Feedback on LMS	
	その他コメント / Comments		
授業形態 / Course Style	講義 / Lecture		

この授業におけるアクティブ・ラーニングを実現するための教育手法 / Active Learning Method in Class	手法 / Active Learning Method in Class	グループワーク / Group Work、プレゼンテーション / Presentation
授業におけるICTの活用 / Use of ICT in Class	双方向授業（クリッカー、タブレット端末等を活用） / Interactive Class(Use of PRS(Personal Response System), Tablet, etc.)	
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 / Study Required Outside of Class	<p>事前学修：1時間程度 新聞記事、ニュースのチェックを行い、リアクションペーパーを完成します。</p> <p>事後学修：1時間程度 ・経済の専門用語について理解ができ、他人に説明できるように復習してください。 ・授業内での未完成の課題を作成します。 ・グループワーク・コミュニケーションの成果を整理し自分なりにまとめ、期末レポートに活かせるようにしてください。</p>	
教科書 / 参考資料（図書・映像） / Textbooks and Reference Materials	<p>教科書： 指定がありません。毎回、プリントを配布しますので、まとめて持参してください。</p> <p>参考文献： 山本和人・鳥谷一生（編）（2019）『世界経済論：岐路に立つグローバリゼーション』 ミネルヴァ書房。 丸川知雄（2021）『新版 現代中国経済』 有斐閣アルマ。 熊野剛雄（2019）『やさしい日本と世界の経済の話』 新日本出版社。 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム（2019）『ゼロからはじめる経済入門ー経済学への招待』 有斐閣。</p>	
その他履修上の注意点 / Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・中国では、「万事始まりが難しい」という諺があります。実は1年生時の習慣作りや学習態度などは、ほぼ大学の4年間で決まると言っても過言ではありません。良い始まりを良い習慣になるよう、心をかけてください。 ・学習する過程を楽しんでください。過程を重視することにより、良い結果が訪れ、達成感を味わうことができ、さらにやりたくなるという好循環になります。 ・大人としての礼儀作法を考えてほしいです。 	
実務経験のある教員による授業 / Instructor's Practical Experience	本授業の一部内容は、トヨタの株式会社国際経済研究所の実務経験によるものがあります。	
その他外部資料等	リンク1 / Link1	
	リンク2 / Link2	
	リンク3 / Link3	
	その他コメント / Comments	

授業計画詳細 / Course schedule

曜日・時限・組 / Day・Period・Class	担当教官 / Details of the instructor	学習内容・行動目標 / Content of study・Goal to act	備考 / Notes
第1回	宋 宇	ガイダンス、履修者同士のコミュニケーション、世界経済への理解の確認	
第2回	宋 宇	経済学&資本主義	
第3回	宋 宇	世界経済の歩み : 第1期のグローバル化 (イギリス中心の世界経済)	
第4回	宋 宇	世界経済の歩み : パクス・アメリカ ナの時代(アメリカ中心の世界経済)	
第5回	宋 宇	中央銀行の役割と金融	
第6回	宋 宇	経済危機	学生のグループワークと プレゼンテーション形式 によって行われます。
第7回	宋 宇	1990年代以降のグローバリゼーションの 世界	
第8回	宋 宇	グローバリゼーションをめぐって	学生のグループワークと プレゼンテーション形式 によって行われます。
第9回	宋 宇	成長する中国経済	
第10回	宋 宇	事例国と世界経済: 貿易編	
第11回	宋 宇	事例国と世界経済: 貿易摩擦編	
第12回	宋 宇	事例国と世界経済: 人口編	
第13回	宋 宇	事例国と世界経済: 環境編	
第14回	宋 宇	日・中・韓・米関係&今後の世界経済に ついて	学生のグループワークと プレゼンテーション形式 によって行われます。リ アクションペーパーの作 成と提出が求められます 。
第15回	宋 宇	まとめ、期末レポートの説明&実施	